

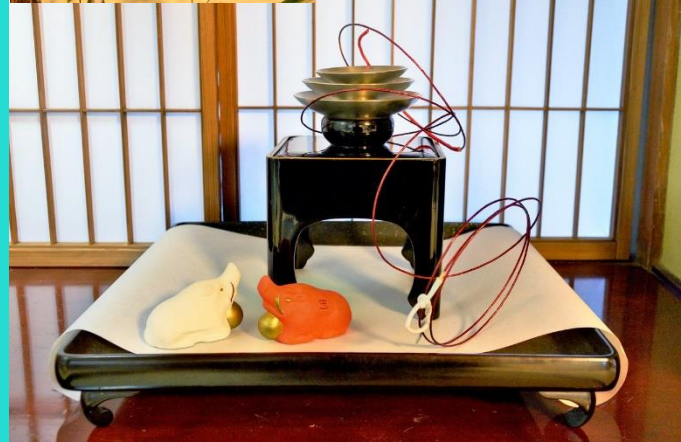


奈良町にぎわい通信

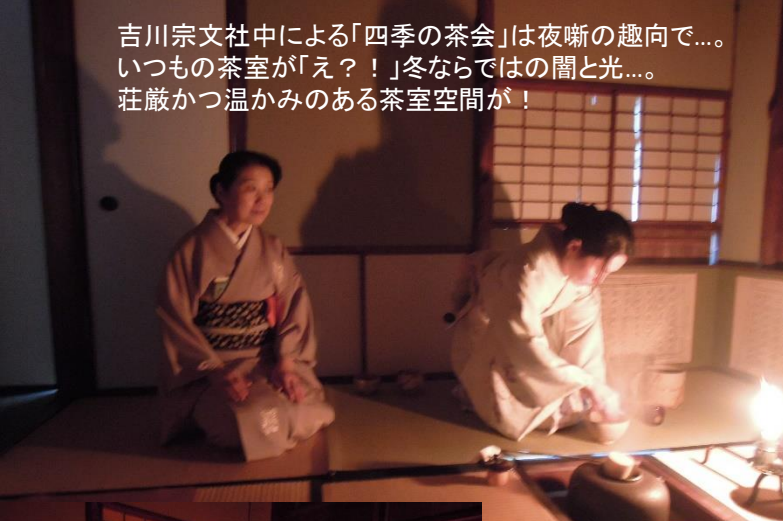
Vol.45

二〇一九・小寒〜大寒

発行
奈良町
にぎわいの家



吉川宗文社中による「四季の茶会」は夜漸の趣向で...。
いつもの茶室が「え?！」冬ならではの闇と光...。
荘厳かつ温かみのある茶室空間が！



み空行く月の
光にただ一目
あひみし人の
夢にし見ゆる
(万葉集巻四)
「月の光で一目
だけお顔を見
た方：夢に見
ました。」



史料保存館コラボ企画「タイムトラベル奈良町」は「奈良の墨」
墨屋が集まり共同で会社を作った近代奈良の様子が。

蔵・特別展「岡橋萬帆～絵巻物の世界」

日本画家、岡橋萬帆の絵巻は、歌と絵で
親しみやすい万葉の世界が。



自らを重ねたような
ユーモアあふれる
河童も秀逸!



奈良町にぎわいの家 12月のイベントから



年末恒例「しめ縄作り」
詳細は次ページを。



かまどに絵手紙、水墨画...
たくさん体験しよう！



息ふきかければ
火が燃える...
当たり前だけれど、
素敵！



ツリーも
手作り！



年末恒例、
**町家格子にオリジナル
特大リース**！毎年、
スタッフの手作りで。
ベースとなる枝や蔓を
採取、ベースを作り、
飾りを編み...。
奈良町の新名所！
写真スポットになって
います。



奈良町 施設巡りトーク～Vol.6 「鹿の舟」

お話
広報
藤岡直子



●開館時間・休館日
繭...9:00-17:00(無休)
竈...平日は11:00-18:00
土日祝は8:00-18:00
(第1,3火曜と毎週水曜定休)
囃...11:00-18:00
(毎週水曜定休)
●連絡先...0742-94-3500

●施設紹介

観光案内所や食堂、カフェを併設した複合施設として、平成27年11月にオープンしました。旧ならまち振興館であった、大正時代の建物を利活用した「繭」(まゆ)と「竈」(かまど)「囃」(さえずり)の三つの空間からなる施設です。「繭」は奈良町の観光案内の場であり、日本の生活文化をテーマにした書庫や講座(お茶やお花)など、学びや体験もできます。「竈」は文字通り、かまどご飯を味わっていただける食堂で、(土日祝は朝から。)料理には奈良の食材を取り入れています。グロサリーでは、地域や素材にこだわった、食に関する商品を販売しています。

●自然と共に～小さな田んぼから

敷地の中に、小さな田んぼがあります。町中では珍しいですが、近隣にお住まいの皆様や観光客の方々にも参加いただいて、田植えをし、収穫をしています。稲の成長には水がかかせません。敷地に古くからある井戸の水を利用していますが、雨の少ない夏場の水の管理は特に気を使い、「雨」の有り難さを大切さをひしと感じます。田んぼに関わることは、四季を感じ、自然をリアルに感じる事…。小さな苗が、青々と成長する姿は、とても美しいものです。当初は、稲穂の実入りもまちまちでしたが、最近はよく実るようになりました。皆でにぎやかに稲刈りをしながら、今年も収穫できたという嬉しさと、こうして協力しながら昔は暮らしていたんだなあ、ということを感じていただける場になっています。



●今後にむけて

観光の情報提供だけでなく、日本人が暮らしの中で大切に守ってきたことに触れられる場として、いろんな講座やイベントを体験の場として充実させていきたいと思っています。お気軽にお立ち寄りください。

聞き手・文責...おの・こまち

しめ縄飾り製作体験レポート

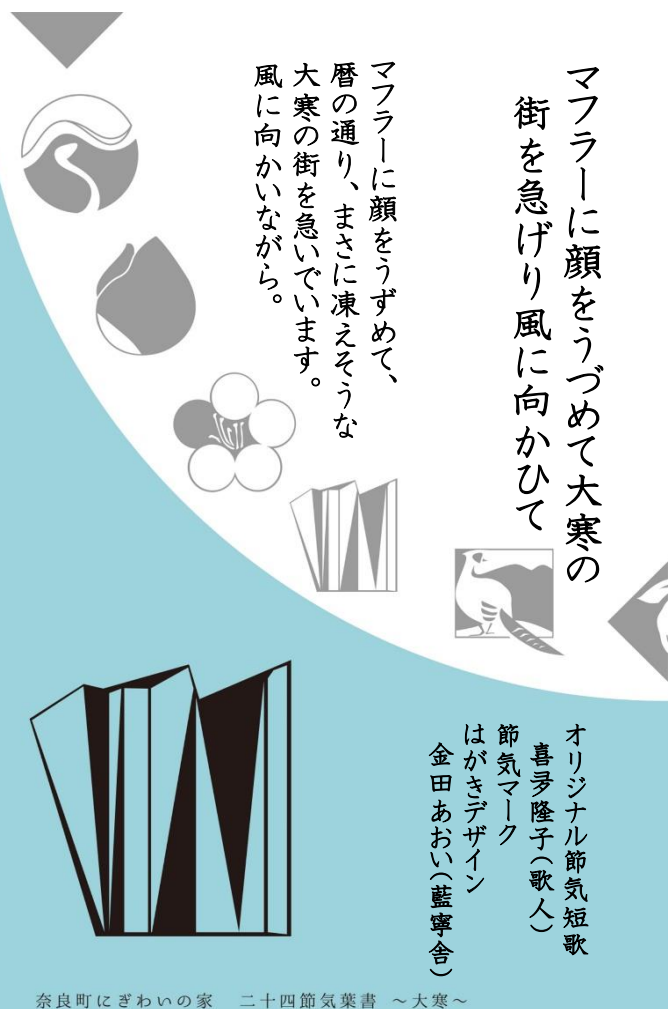
今年も田原の岡井稲郎先生(田原地区伝統芸能保存会顧問)にご指導をいただき、小学生から年配の方まで参加いただきました。ワラはその年に採れたもち米のワラ。すでにワラの束にしてあるものを、まず、霧吹きで水をかけ、木づちでトントン叩きます。小学生チーム、楽しそうに叩いてました。それから芯にするワラ束の先をハサミで両サイド鋭角になるように切り、準備完了。いよいよ藁を絢(な)う!

2人1組になり、まずワラ束を3つに分けます。見えないように芯をくるみ、1つを時計回りにねじります。そのねじったワラ2本を今度は反時計回りにねじり合わせ、最後にもう1本もねじり合わせます。ワラの美しい線が出るようにねじる加減が難しく、困っていると、「よっしゃ、よっしゃ」と岡井先生が助けてくれ、見事に仕上げてくださいました。

最後に垂れ用のワラを絢っていくのですが、先生がすると、いとも簡単に見えるのですが、みなさん大苦戦。でも、コツをつかむと段々楽しくなり、みなさん見事に完成しました! ワラは一本では簡単にちぎれますが、何本か一緒に絢うことで強くなります。協力し合ってきたしめ縄で、新しい一年の始まりをみなさん気持ちよく迎えられたことでしょう。

(当館・西村智恵)

岡井先生を
囲んで



マフラーに顔をうづめて大寒の
街を急げり風に向かひて

マフラーに顔をうづめて、
唇の通り、まさに凍えそうな
大寒の街を急いでいます。
風に向かいながら。



オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

新年のにぎわい！今年もよろしくお願いします。

事務局だより

2019
大寒



独楽名人大塚先生の
指導で皆プチコマ名人？！

ことわざカルタは老若男女、国籍関係なく！
←海外のお客様、福笑いチャレンジ！

「新年の風景から」アナログ考

当館プロデューサー おのこまち

新年、奈良町にぎわいの家はにぎやかです。一月いっぱい座敷には、カルタ、すごろく、福笑い。外では独楽遊び、羽つき。蔵には来館者が年末に描いて下さった「凧」が展示中。その場で描いてもらえるので、凧は日々数が増え、蔵いっぱいになりました。

私たちは、特別な遊びを用意しているわけではありません。スタンプがつきつきりで、一緒に遊ぶわけでもありません。でも、各コーナーはお客様が集い楽しんでおられます。にぎわう声が聞こえます。伝統的なアナログ的なものが、そこにある。それが楽しいということ。

今年、平成から新元号となる節目の年。平成は各家庭にパソコン、インターネットが普及した時代として記憶に残るでしょう。デジタルという言葉も当たり前となりました。それに対する言葉として「アナログ」があります。（デジタル、アナログという言葉は、情報処理に関しての用語で、世間的な文脈での使い方と異なるようですが、ここではデジタル的世界に対してアナログとします。）デジタル化によって圧倒的に情報量が増えました。テレビの地デジ化に焦ってテレビを買い換えたのも懐かし。今や4K8Kと、画

像はますます進化を遂げています。それはテレビが伝える中身とは別のものです。何を作り何を発信するかは「人間」なのですから。その人間は、今や最先端をいくAI（人工知能）に、未来を託すかのようです。アナログという言葉は古いものの象徴としてよく使われますが、生命体としての人間は機械のように進化しない、至ってアナログ的な存在といえるでしょう。

けれど、人の肉体はその「ふるさ」ゆえに素晴らしいのかもしれない。：限りある存在だからこそ、生まれた価値や文化。「一期一会」という言葉もそうでしょう。折々の一瞬を大事にする日本人の美学には、なべて人の手触り感があります。

当館はそんな手触り感に満ちた家です。建物は全て人の手と技が集まってできています。床の間も茶室も凝った意匠の引き手も人の手仕事そのものです。こうした伝統的な町家に来て「すごい」「ほっとする」と来館者が口にされるのは、かつての人の知恵や技への敬意や温もりを、体感するからではないでしょうか。

新たな時代、更に技術革新は進むことでしょう。が、当館の素朴な遊びに夢中になるお子さんや、独楽に熱中する若者を見ながら、この家のアナログ的価値はこれからだ、と感じています。皆様、今年もどうぞ気軽に越してください。お待ちしております。

奈良町にぎわい通信vol.45

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おのこまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

書：逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



小寒

1/6~19



大寒

1/20~2/3

わが谷に新年の雲青透けり
春来る鬼と盃を交せば

前登志夫